



いきいき慈恵



第三病院だより

Vol.7 平成25年4月

財団法人 日本医療機能評価機構 認定病院

ご挨拶

院長 谷口 郁夫

新しい第三病院をめざして



慈恵第三病院は昭和25年に東京慈恵会医科大学附属の分院として開設されました。当院は“総合医療で地域の医療ニーズに応える”ことを病院の使命とし、専門的疾患ばかりではなく急性期病院として一般的な疾患まで幅広く対応しています。平成24年に東京都がん診療連携協力病院に認定され、各科のがん診療だけでなく専門的な造血器がんの治療も行っていますし放射線治療も充実しています。また、総合診療部では緩和ケアを含む複合的疾患に対して外来と入院の診療を行っています。一方、特徴的な施設として国際的に知られた精神療法の森田療法センターや感染隔離施設として結核専門病棟があります。リハビリテーション科は高次脳機能障害（認知障害、社会的行動障害）のリハビリも行っています。病院1階に患者サービスと医療連携のための総合医療支援センターがあります。その中にはソーシャルワーカー室、医療連携室、在宅療養相談室がありますが、そこへ入院前から退院後の医療連携を一元的にサポートする在宅・入退院支援室を新設しました。緩和ケア、がん相談支援、糖尿病予防指導も行っていますのでどうぞお気軽にご相談ください。

平成24年秋に診断画像のフル電子化を行い、平成25年度を目途に電子カルテを含む病院システムの電子化を行う予定です。病院システムの電子化は業務の合理化や文書保管の簡略化ばかりでなく、患者さんの待ち時間や会計の時間短縮、薬剤間違いの減少にも大きく貢献する筈です。病院を運営しながらの作業となりますので今後ご迷惑をおかけするかも知れませんが、御協力の程よろしくお願いいたします。

当院は森田の庭をはじめ慈恵医大の国領キャンパスが隣接しているため広い敷地内は緑豊かな環境となっておりますが、現在、戦後の古い建物の取壊し工事とリニューアルを順次行っています。病院のシステムの電子化とともに第三病院の医療環境を改善して、狛江、調布および世田谷地域の皆様に一層信頼される病院として社会貢献していきたいと思っております。今後の新しい第三病院に皆様の御支援と御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

東京慈恵会医科大学建学の精神

「病気を診ずして、
病人を診よ」

病院の理念

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざします。

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。また、病者の痛みにも共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成を目指しております。

病院の基本方針

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践します。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努めます。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供します。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践します。

128列マルチスライスCT

〈 SOMATOM Definition AS+ 〉を導入しました 《 放射線部 》

昨年8月128列マルチスライス CT〈SOMATOM Definition AS+〉が導入され、新たな検査の実施や被曝低減など様々なメリットが追加されました。

『メリット1：患者負担の軽減』

●撮影時間の短縮

撮影時の呼吸停止時間が以前の1/2～1/3程度に短縮でき、体幹部領域では患者負担を大幅に軽減されました。

●被ばく低減

当院は全国で5番目の医療被ばく低減施設認定（2012年12月1日現在、全国で32施設、東京都では当院を含め5施設が取得）を受けています。高画質を維持しつつ、施設認定を受けた当時よりも被ばく線量の少ない検査を実現しています（右のプレートが正面玄関右壁に掲示されています）。

『メリット2：新規 3Dワークステーションの導入』

骨や血管の描出・消去処理が高精度で可能となり、頭部 CTAにおいて従来は頭蓋骨に埋もれて描出困難であった内頸動脈や椎骨動脈領域においても容易に観察できます。

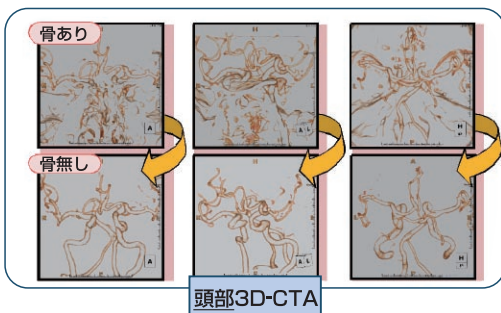


図 2

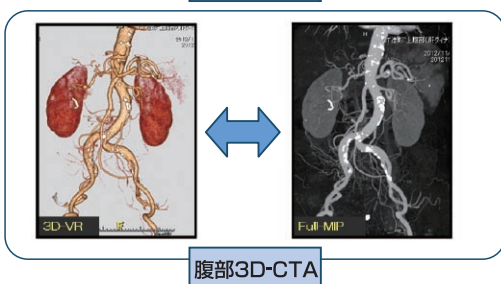


図 3



図 1



『メリット3：冠動脈CT検査の実現』

最近、虚血性心疾患の早期発見・治療のためにカテーテル検査を行わずに冠動脈を撮影できる CT検査が注目され、患者への侵襲度が少なく冠動脈の形態や石灰化の有無の評価が可能となりました。

2種類の3次元画像で多方向から冠動脈の観察ができ（図4）、細かいスライス厚の3次元データの為、任意断面の評価ができます。（図5）

3Dワークステーションとの併用により、①3D-VRから②Curved MPR、血管を進展させた③Stretch Viewを作成でき、さらに IVUSの様な血管に対する④Axial Viewも表示できます。（図6）

『メリット4：外来予約待ち日数短縮』

単純CT検査であれば、希望される患者さんには当日予約無しで検査を受け帰宅していただくことが可能となりました。

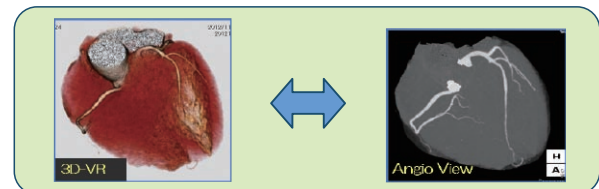


図 4

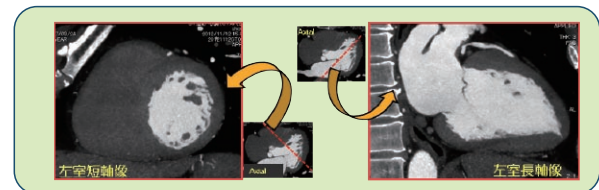


図 5

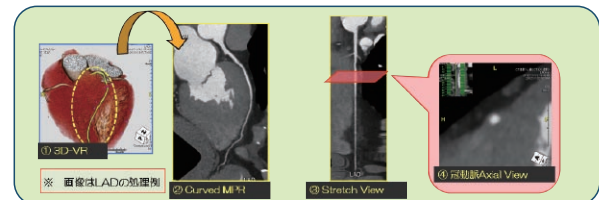


図 6

MR装置をアップグレードしました

《 放射線部 》

昨年5月から稼動し始めた Symphony 1.5T-Tim System（図7）について紹介します。Symphony Tim Systemとは既存装置（Symphony 1.5T:SIEMENS社製）のマグネット部以外の構成要素（受信コイル、新しいアプリケーション）を最新のハイスpekクな

システムにアップグレードしたもので、大幅な画質と検査効率の向上を実現しました。



『メリット1：Tim (total image matrix) システムを搭載した受信コイル』

Tim システムのコイル(=MR 信号を受信する装置)は一度にたくさんのMR 信号を受信できます。高画質、高精細な画像の提供が可能となり且つ、毎回、検査ごとに行っているコイルの付け替え作業が省かれるため各検査のスループットが格段に向上しました。

『メリット2：新しいMR 撮像技術の可能性』

①Syngo BLADE(体動補正撮像技術)：動きによるアーチファクトを抑制し画質向上が期待できるため救急、小児、高齢者の検査などに有用です。また頭部以外の関節や腹部などへの利用も可能です。(図8：通常の撮像方法との対比)

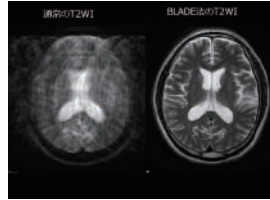


図 8

②Syngo SWI (磁化率強調画像技術)：微小出血や静脈奇形などを高感度で検出でき診断能の向上が期待できます。

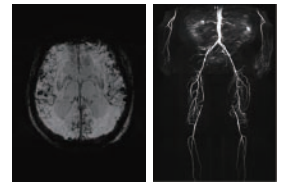


図 9 図 10

(図9: Misery perfusion 症例)

③Syngo NATIVE-SPACE (非造影MRA技術)：造影剤を使用できない患者さんに対する新しい検査方法です。(図10：ASO 症例)

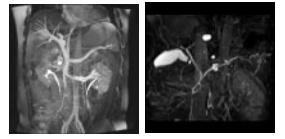


図 11 図 12

④Syngo NATIVE-TrueFISP(Arterial spin labeling技術)：血液のラベル化により選択的な血管描出が可能になりました。(図11：選択的に門脈を描出)

⑤Syngo-PACE-MRCP(デジタル呼吸同期併用のMRCP撮像技術)：高精細なMRCP画像が提供でき診断能の向上が期待できます。(図12：IPMN 症例)

PACS (画像保存通信システム) が導入されました！！

《放射線部》

当院では、平成24年10月にPACSが導入されました。PACS は今日の医療に必要な不可欠な安全でスピーディーな検査画像の提供を行い、結果的に患者さんの負担を軽減するシステムです。

『PACS とは』

画像保存通信システム (Picture Archiving and Communication Systems/ 以下 PACS) の略称です。画像検査機器 (CT・MRI・一般撮影・超音波・血管撮影・核医学など) で撮影された患者さんの画像を蓄積・管理するサーバと、それら画像を表示・参照するためのビューア(PCモニター) で構成された医用画像ネットワークシステムのことです。各科外来・病棟において、医師が保存した画像の中から見たい画像をPCモニター上で見ることが可能となりました。

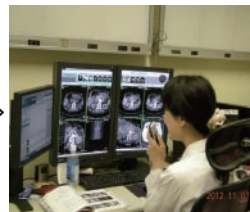


『診療科ブース&放射線部読影室では、何が変わったでしょうか!』

検査終了後、直ちに放射線部医師 (読影医) および担当医は画像を確認し、読影・診断することができます。撮影後フィルムの移動もなく、各科診療室で画像閲覧が可能となり、診察までの待ち時間が短縮されました。



以前はフィルムにて診断



放射線部読影室で読影



各科診療室で診断・説明

『PACS 導入による患者さんにとっての利点』

- ①診断価値の高い良質な画像データを提供でき、且つ画像の劣化がありません。
- ②フィルムの渡し間違い、紛失・入れ違いのリスクがなくなりました。
- ③撮影後、フィルム出力、手渡しの作業がなくなったため、⇒「患者さんの待ち時間の短縮」「待合室の混雑緩和」「患者さんのフィルム置き忘れ防止」に繋がりました。
- ④過去画像データを瞬時に確認でき、迅速な比較診断が可能となりました。
- ⑤複数科受診による検査の重複が回避でき、1つの画像を各科で有効に共有・活用できます。

『PACS 導入がもたらす最大のメリット〈フィルムレス〉』

PACS が導入前は、各検査室で撮影した画像を患者さん自身もしくは付き添いの方にフィルム袋をお渡しし、各外来に運んでいただいていたおりましたが、今は患者さんが会計ファイルだけを持って外来へ帰っていただいています。

X線フィルムと撮影依頼伝票の照合間違い、他の患者さんのフィルムの混入、保管不備によるフィルムの紛失など、人為的なミスが無くなります。

『栄養部の食事』を外来食堂にて1食680円で提供中！

《 栄養部 》

栄養部では毎月1日と21日（日・祭日を除く）に外来食堂にて、実際に入院患者さんに提供している『麦とろ定食』を10食限定で販売しています。本学の創設者である高木兼寛（海軍軍医）が『麦飯』を取り入れた食事を海軍で実践し、当時問題となって

いた脚気を激減させ多くの命を救いました。このことから『麦飯』は当院を代表する食事となっています。

診察や面会などでご来院の際には、食事バランスに配慮された『麦とろ定食』を是非ご賞味ください。



1日のメニュー

- 麦ご飯
- とろろ
- 香り焼き魚
- がんもどきの煮物
- お浸し

エネルギー：668kcal
たんぱく質：31.4g
脂質：13.7g
食物繊維：7.4g
塩分：3.3g



21日のメニュー

- 麦ご飯
- とろろ
- 粕漬け焼き魚
- 切り干し大根煮
- 季節の果物

エネルギー：664kcal
たんぱく質：26.1g
脂質：7.0g
食物繊維：9.0g
塩分：2.3g

病院システムの電子化が始まります。

当院では、「患者サービスの向上」「業務の効率化」「安全性の確保」そして「医療の質の向上」等を目指し、病院システムの電子化に向け準備を開始しました。

新しいシステムは平成26年1月1日から稼動する予定となっております。

会計待ち時間の短縮化を図ることで患者さんの満足度向上、併せて医療安全の確保にも繋がると考えております。

引き続き皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。
(院長)



院内にローソンがオープンしました。

第三病院旧売店跡地に慈恵医大では3店目となる「ローソン慈恵医大第三病院店」が3月4日オープンしました。

営業時間は、年中無休で7:00～21:00となります。

お得な「Pontaカード」の会員募集も行っておりま

すので店内のスタッフにお気軽にお声掛けください。

今後、利用される皆さまに喜ばれるようなお店作りを心掛けていきますので、よろしくお願い申し上げます。(店長)

